

令和7年度 獨協医科大学大学院医学研究科入学者選抜試験  
専攻科目試験 先端外科学（外科）

・意図

消化器外科領域の大学院に進むに当たり、現在のガイドラインなどの標準的な治療法を理解出来ているかを代表的な疾患を中心に知識を問うことを目的とした。一方で、大学院に進むものとしては単に標準治療を踏襲して臨床を進めるのでは十分でなく、現在問題点となっている課題を見つけ、それを解決するために臨床研究を組んでいくことが求められる。そのため、現在、臨床的に問題となっている点を上げることができるか、また、臨床研究の遂行の基礎的な知識を有しているかどうかを問う問題とした。通常、臨床研究の論文を目にしていれば、十分に解答可能であり、模範的な正解を求めるのではなく、自身の考え方をしっかりと示すことができるかを問う設問とした。

・解答

[設問1]

大腸癌の術前化学療法の効果については現時点では有効性を示す報告とそうでない報告とが認められ、以前、標準的な治療法にはなっていない。そのことから、まずはガイドライン上では術前補助療法がルーチンでないことを説明し、そのなかで、局所進行、切除断端リスクが高いハイリスク群においてのその有効性を示す臨床試験が示されていることを説明していることで、加点を行う。また、その有効性を示す為の臨床試験として、その方式（特にランダム化比較試験）に言及し、主要評価項目（無再発生存期間や全生存期間）をあげられていること、研究対象をしっかりと絞れているか、どのようなレジメを採用するかについての説明があれば加点を行う。

[設問2]

肝細胞癌に対しては近年、免疫チェックポイント阻害薬の有効性が示され、アテゾリズマブ+ベバシツマブ療法、デュルマルマブ+トレメリムマブ療法が切除不能肝細胞癌に臨床応用されている。その点をふまえ、これらのレジメの効果について言及していることを加点対象とする。加えて、今後、これらの治療法による切除不能肝癌の Conversion surgery が研究対象になると考えられること、その効果を示す臨床試験をどのようにデザインしていくのかについて、臨床試験の形式、対象症例、登録方法、主評価項目、副評価項目を具体的に記載し、研究の目的をはっきりさせている点を加点対象とする。